

## 平成27年度 臨床研究推進研修会に参加して

国立国際医療研究センター病院 薬剤科 大橋 裕丈

私が1年を通して全5回からなる臨床研究推進研修会に参加した感想は、「自分が想像していた以上の経験が得られる研修会であり、参加して良かった」ということでした。

私は、薬剤師になって3年目です。自身で臨床研究を行ったことはありませんでした。レジデントの時に指導薬剤師の先生方にサポートをして頂き行った研究や一事例からなる症例報告等を行ったことがありましたが、自分自身から新たに研究計画を立案し臨床研究を行ったことは一度もありませんでした。臨床研究に興味はありましたが、何から始めれば良いのか、どのようにして研究テーマを決めれば良いのか、全く解らない状態でした。そんな時、教育研修部の先生より「臨床研究推進研修会に参加したらどうか？」と声を掛けて頂きました。関信地区国立病院薬剤師会で臨床研究推進研修会が行われていることは知っていましたが、私のような臨床研究に関する基礎的知識もない人間が参加したとしても研修内容を理解することが出来ないのではないか、場違いではないかと考えていました。しかし、前年度の研修会に参加した先生より話を聞かせて頂き、研修会の意図が自分のようにまだ臨床研究を行ったことのない初心者も対象にしており、基礎から指導して頂けるということを伺い参加することを決めました。

実際に参加してみると、前年度の研修会と大きく異なる点が2つありました。1つ目は、受講生に対するチューターの対応体制でした。前年度ま

では1グループ約6名の受講生に1～2名のチューターが対応しておりましたが、今年度より1グループ4名の受講生に2名のチューターが対応して頂き、そのグループ内で2名の受講生に対して担当となるチューターが1名付いて頂けたというとても手厚い対応の点でした。そして、2つ目は、研究テーマの立案体制でした。前年度までは、1グループ約6名が1つの研究テーマに関して研究計画の立案を行っていましたが、今年度よりそれぞれの受講生が1人1つの研究テーマに関して取り組むことができ、各自の責任は大きくなりますが、自身がより興味のある研究テーマに関して真剣に取り組むという点でした。今年度は、前年度以上に受講生に優しい体制になっていました。

次年度受講される方が読まれた時の参考になったら良いと思い、私の経験からアドバイスを1つ載せさせていただきます。第1回研修会に参加する前にアンケートが配られ興味のあるクリニカルクエスション（CQ）に関して3つのテーマを提出します。始めからテーマが決まっている方は問題ないと思いますが、これから考える方は、業務中やそれ以外の時間もポケットにメモ用紙を入れておき、疑問に思った点や検索したけれど解らなかった点などをメモしておくことをお勧めします。そういった些細な点がCQに繋がります。私がこの時挙げたCQは、「ニューモシスチス肺炎（PCP）に対する予防内服に関して」、「TDMに関して」と「腎機能障害患者における薬剤投与に関して」

の3つを挙げました。大まかでもテーマを考えておくことが大切になり、私の最終研究テーマもこの時に挙げた「ニューモシスチス肺炎（PCP）に対する予防内服に関して」から派生した内容となりました。しかし、第1回の研修会で研究テーマが決まるわけではなく、その後もチューターの先生方と話し合い徐々に煮詰めて行きます。そのため、第1回研修会後も引き続きCQに繋がる疑問点などを集めておくことをお勧めします。

臨床研究推進研修会で受講した講義内容を簡単にですが、まとめさせていただきます。

第1回研修会のがん研究センター東病院 川崎敏克先生の『臨床研究の倫理規範とIRB』では、臨床研究を行う上で最低限のマナーであり、大切ですが忘れがちになってしまう倫理に関して学ばせて頂きました。また、横浜医療センター 赤木祐貴先生の『クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ』では、自分たちが考えてきたCQをどのようにリサーチクエスチョン（RQ）にするか、PECO/PICO（T）やFINERへの変換に関して学ばせて頂きました。慶応義塾大学 松嶋由紀子先生の『文献の検索方法』では、自身の研究テーマが「新規性はあるのか、必要な研究か、興味を引くテーマか」について調べるうえで大切である文献の検索方法に関して学ばせて頂きました。

第2回研修会の国立国際医療・臨床研究センター 田中紀子先生の『研究デザインの立案』では、研究デザインの実例や自身の考えをまとめて研究テーマを決める時に便利なコンセプトマップという手法を学ばせて頂きました。

第3回研修会の帝京平成大学 濃沼政美先生の『評価項目の選定と使用すべき検定手法』では、自身も苦手視していた統計解析に関して解りやすく実例を交えながら学ばせて頂きました。

第5回研修会のがん研究センター東病院 野村

久祥先生の『臨床研究七転び八起き、千里の道も一歩から』では、最後の研修会ということもあり、先生のこれまで行ってきた臨床研究への取り組みや経験談を踏まえて、受講生へ今後の研究活動のエールとなるような話をして頂きました。また、東京薬科大学 川口崇先生の『薬剤師視点による臨床研究の企画・立案-実例を通して-』では、病院薬剤師を経験し現在大学の助教授として活躍されている先生ならではの新しい視点から病院薬剤師の臨床研究に関して話をして頂き、自身の体験談を交えながら、人と人との繋がり・仲間の大切さについて学ばせて頂きました。

そして、第1回から第5回までの研修会を通し学んだことを基盤にチューターの先生方にサポートして頂きながら研究計画の立案を行いました。最後の第5回研修会において私も立案した研究テーマに関して発表することができ、研修会のテーマでもある『臨床研究・疫学研究・薬剤業務研究のノウハウを習得して研究計画を立案し、実践につなげよう！』を達成できたと思います。

また、この研修を通して、第5回の講義のキーワードにもなっていた「仲間」の大切さを改めて学びました。何よりこの研修会に参加して良かったと思う点は、同じ思いで研修に参加した受講生や指導して下さったチューターの先生方と繋がりを持ち意見を交わすことができたことでした。

この寄稿を読まれる方の中には、研修会の参加を悩まれている方もいると思います。臨床研究に興味があり、やる気があれば是非参加すべきだと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご指導いただいたチューターの先生方ありがとうございました。そして、研修会において担当チューターになって下さった東京医療センター 大橋養賢先生、がん研究センター東病院 太田貴洋先生、本当にありがとうございました。